

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

# 設立財団ニュースレター

Vol.27

2022年 7月20日発行

## 知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022

6月11～13日に、現地実習・演習を開催しました

2022年6月11日（土）～13日（月）、当財団初の社会人向け教育プログラム「知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022」の現地実習演習を開催しました。現地知床での開催は3年ぶりで、2月に実施したオンライン講義の受講生のうち20名にご参加いただきました。6名の講師とともに知床の現場を歩き、野生動物管理について理解を深めました。

開催月日	2022年6月11日（土）～13日（月）
開催場所	講義・演習会場：知床第一ホテル 宿舎：ホテル知床
参加者	20人 環境省や林野庁、都道府県、市町村職員のほか、環境コンサルタントや環境NPO、民間会社など、野生動物保護管理に携わる現職の方を含め、保護管理にさまざまな関心を持つ人々が集まりました。
講師（敬称略）	秋葉圭太（公益財団法人知床財団 公園事業推進プロジェクトリーダー） 宇野裕之（東京農工大学大学院農学研究院特任教授） 梅村佳寛（公益財団法人知床財団 保護管理部保全研究係主任） 梶 光一（東京農工大学名誉教授） 敷田麻実（北陸先端科学技術大学院大学教授） 山田秋奈（環境省釧路自然環境事務所ウトロ自然保護官事務所国立公園管理官）



主催：公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

後援：環境省釧路自然環境事務所



本事業は、公益財団法人自然保護助成基金第32期（2021年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成を受けたものです。

## 実習演習のプログラム

	時間	実習・演習タイトル	講師	場所
6月11日(土)	9:00-9:15	開会	主催者	知床第一ホテル
	9:15-9:30	自己紹介・アイスプレイング	敷田麻実	
	9:30-10:30	講義①「管理のデザインとそのプロセスについて」	敷田麻実 秋葉圭太	
		講義②「カムイワッカ地区の概要、管理の経緯と取組み」		
	10:30-10:45	移動		
	10:45-11:20	知床自然センター見学、昼食		知床自然センター
	11:20-11:40	移動		
	11:40-18:20	実習①「魅力的な観光資源の活用と安全管理」(カムイワッカ地区) 実習②「利用調整地区制度に基づく公園管理」(知床五湖)	秋葉圭太 敷田麻実 山田秋奈	野外フィールド (カムイワッカ地区、 知床五湖利用調整地区)
	18:20-18:50	移動		
	18:50-20:30	チェックイン・夕食		ホテル知床
20:30-22:00	演習① チームごとの振り返り、意見共有	全講師		

6月12日(日)	7:00-8:00	朝食		ホテル知床
	8:00-8:20	移動		
	8:20-9:30	実習③「河川工作物の改善と河川生態系の回復」(岩尾別川流域)	梅村佳寛	野外フィールド (岩尾別川流域)
	9:30-10:40	実習④「エゾシカ管理と植生復元」(岩尾別台地)	宇野裕之 梅村佳寛 梶光一	野外フィールド (岩尾別台地)
	10:40-11:00	移動		
	11:00-12:15	演習②ディスカッション①「価値の提案とビジョン」	全講師	知床第一ホテル
	12:15-13:15	昼食		
	13:15-14:35	演習③ディスカッション②「管理対象の決定と対象資源の特定」		
	14:35-14:45	休憩		
	14:45-17:40	演習④ディスカッション③「管理計画の作成」		
	17:40-19:45	夕食		ホテル知床
	19:45-21:15	演習⑤ 発表・全体討議	全講師	知床第一ホテル

6月13日(月)	8:30-8:50	修了式	主催者	ホテル知床
----------	-----------	-----	-----	-------

## 知床実習演習 1 日目 (6 月 11 日)

実習初日はアイスブレイキングや講義のあと、2グループに分かれ、カムイワッカ地区と知床五湖を交代でめぐりました。知床の公園利用を中心に学習し、夜には班ごとに振り返りや意見の共有をおこないました。

### アイスブレイキング・講義

会場：知床第一ホテル

2月のオンライン講義を受講していた20名の受講生が初めて顔を合わせました。はじめはやや硬い表情の皆さんでしたが、敷田講師によるアイスブレイキングを通じてすっかりうち解けました。

講義では、敷田講師から管理計画についての基本的な考え方、秋葉講師から演習で扱うカムイワッカ地区の概要と今日の取り組みを説明していただきました。受講生は基礎知識をしっかりとらえた上で実習へと出発しました。



### 現地実習 1 魅力的な観光資源の活用と安全管理

実習場所：カムイワッカ地区

観光資源の活用と安全管理の両立に向けた取り組みが進められているカムイワッカ地区では、温泉の滝やその周辺を歩き、潜在的な観光資源の発掘をおこないました。

また落石や転倒のリスク、およびそれらを防ぐための安全管理について、秋葉講師や山田講師の解説を聞きつつ、自らの身体を通じて考えました。2日目に控えていた演習に向けて有意義なフィールドワークとなりました。



## 現地実習 2 利用調整地区制度に基づく公園管理

実習場所：知床五湖

知床を代表する観光地であり、利用調整地区制度が適用されている知床五湖の管理システムを、ガイドツアーへの参加を通じて学習しました。

今回はヒグマが活発に活動する「ヒグマ活動期」に該当する時期での訪問となりました。定員による利用者のコントロールやガイドシステム、地上遊歩道と高架木道を活用した利用スタイルの提示など、常にヒグマが出没する可能性のある中で、どのように利用者の安全と質の高い観光体験を両立しているのかを学習しました。

管理システムだけでなく、質の高いガイディングからも多くのことを学んだという声も聞かれました。



## 演習 1 振り返りと意見の共有

会場：ホテル知床

夕食後、翌日の演習に向けて、班ごとに振り返りとそれぞれの意見の共有を行いました。

知床五湖でガイドを担当して下さった知床ネイチャーオフィスの松田光輝さんも駆けつけてくださり、講師も交えて夜遅くまで熱心な意見交換が行われました。



## 知床実習演習 2 日目 (6 月 12 日)

実習 2 日目は岩尾別地区において生態系復元や植生回復の取り組みを学びました。その後はホテルに会場を移し、チームごとに分かれ、ここまでの講義や実習に基づいてカムイワッカ地区の管理を考える演習に臨みました。

### 現地実習 3 河川工作物の改善と河川生態系の回復

実習場所：岩尾別川流域

河川生態系回復の取り組みが進められている岩尾別川流域で、サクラマスの上流を可能にするために改良されたダム、及びこれから改良予定のダムを見学しました。

加えて、町が 2021 年に作成した手づくり魚道を見学しました。官民共同で作られたという魚道は昨年の豪雨により壊れてしまいましたが、今年度中に再チャレンジするということであり、試行錯誤の中で生態系回復の取り組みを進めていることを学びました。



### 現地実習 4 エゾシカ管理と植生回復

実習場所：岩尾別台地

「知床半島エゾシカ管理計画」に基づき個体数調整が進められている岩尾別台地では、大型仕切り柵を用いたシカの個体数調整について、宇野講師、梅村講師、梶講師に解説していただきました。実物を目の前にしてその規模の大きさに驚きの声が上がりました。

大型仕切り柵に向かう途中で幸運にもヒグマの糞を発見し、DNA サンプルを採取する様子を見ることができました。知床におけるヒグマ管理を支えているデータ収集プロセスの一端を知ることができました。



## 演習2～5 カムイワッカ地区のデザイン

会場：知床第一ホテル

ネイチャーキャンパスの総まとめとなる演習では、敷田講師と秋葉講師のファシリテーションのもとで、デザイン思考でのカムイワッカ地区の模擬管理計画作成に取り組みました。

演習は3つのセクションから構成され、まず各班は管理ビジョンの文章化を目指しました。続いて管理の範囲や資源を特定し、管理上の課題の検討を行いました。最後には管理者や運営資金を含んだ、実現可能性・持続可能性の高い管理計画の作成に取り組みました。各班には一人ずつ講師がつき、ディスカッションの進行をサポートしました。

管理計画の最終発表では、受講生間や講師との活発な意見交換が行われました。限られた時間ではありましたが、管理計画作成のエッセンスを学ぶことができた演習でした。



## 知床実習演習3日目（6月13日）

### 修了式

会場：ホテル知床

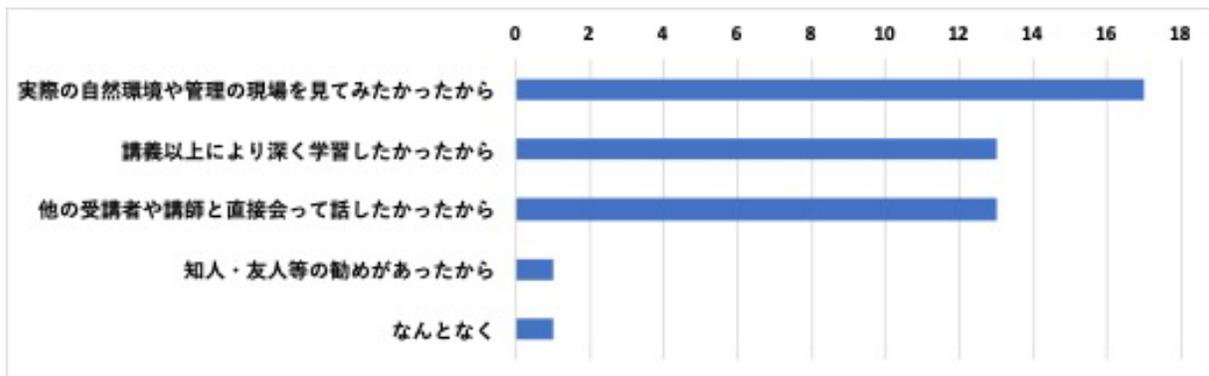
最終日の朝、簡単な修了式を行い、受講生には修了証が手渡されました。解散後にも自主的に知床を歩いて帰られた受講生も多く、それぞれの実務に資する多くの学びを持って帰っていただけた様子でした。



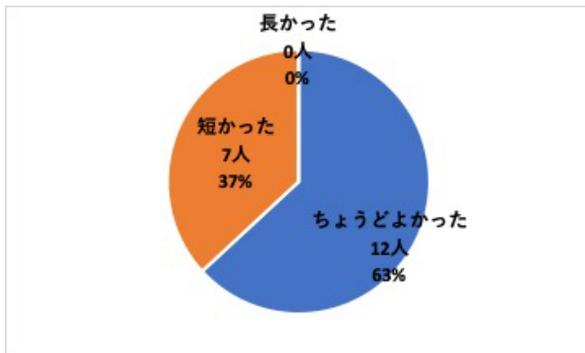
## 知床実習演習のアンケート結果 (抜粋)

今回の参加者20人のうち、19人からアンケートのご協力をいただきました。  
集計結果の概要や自由回答の一部をご紹介します。

### 講義だけではなく、現地実習・演習への参加を決めた理由は何ですか？ (複数回答可)



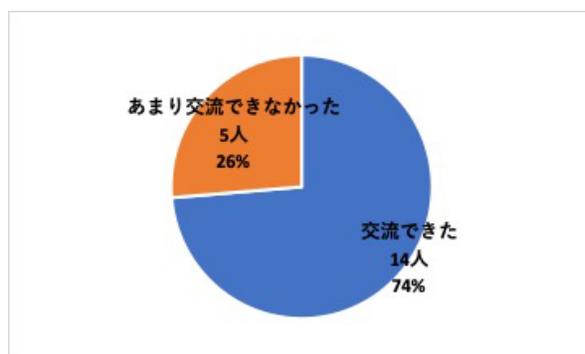
### 開催期間(2日間)は適当でしたか？



開催期間については、「ちょうどよかった」という声が多かった一方で、以下のように「短かった」という声もいただきました。

- ・他の参加者と十分交流する時間が取れなかった。コロナ禍の影響もあるものの、フリーで会話できる時間がもう少しあると有難かったと思いました。
- ・内容としては非常に濃くて良かったですが、もう少し時間にゆとりが欲しかったと思います。
- ・かなりタイトなスケジュールだった。特に興味をもった現地実習の内容ごとに新たなグループを作り深掘りしてみたかった。

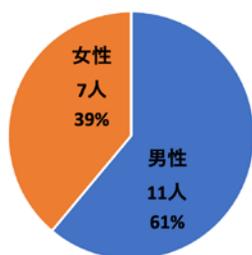
### 他の受講者、講師、スタッフ等と十分交流はできましたか？



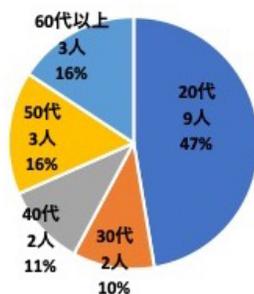
交流については、多くの方が「交流できた」と回答。「交流できなかった」理由としては、「班員とは十分に交流ができたが、わずかな休み時間や、座席に距離が設けられたホテルの食事会場ではほかの班員と十分に交流する機会を作れなかった。いまだコロナを警戒しなくてはいけない時節柄仕方ないが、全体の打ち上げができればよかった」などの意見をいただきました。

新型コロナウイルス対策のためやむを得ない点はあったものの、今後のプログラム・運営に生かしたいと考えています。

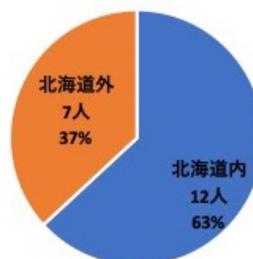
## 回答いただいた方について



性別



年齢



お住まい

北海道外の方  
 東京都  
 岩手県  
 福島県  
 群馬県  
 京都府  
 大阪府

### ご職業

- ・ 会社員
- ・ 森林業
- ・ コンサルタント
- ・ ヒグマ情報センタースタッフ
- ・ 林野庁
- ・ 観光業
- ・ フリーランス
- ・ NGO職員
- ・ 通訳ガイド
- ・ 公務員(非正規)
- ・ NGO
- ・ 地域おこし協力隊 (川湯ビジターセンター勤務)
- ・ アウトドアガイド
- ・ 大学演習林技術職員
- ・ 国家公務員 (環境省)
- ・ 地域おこし協力隊
- ・ 獣医師
- ・ 国家公務員

## 実習1 「魅力的な観光資源の活用と安全管理」(カムイワッカ地区)で学んだことを教えてください

- ・ 非常に魅力的で、観光資源とすべき環境ではあるとともに、非常に危険が伴う環境の管理の難しさを痛感しました。
- ・ 守るためには価値が認識されなければならない、そのためには利用されなければならないが、それによって劣化しては元も子もない、ということを改めて認識し、難しく感じました。
- ・ 立ち入り禁止となる理由や、禁止せざるをえない現状など、管理の大変さを感じた。
- ・ 今回のような、少し難易度が高いアクティビティをすると、自然と他の参加者の方とのコミュニケーションが生まれて、とても楽しかったです。

## 実習2 「利用調整地区制度に基づく公園管理」(知床五湖)で学んだことを教えてください

- ・ 知床五湖という同じエリアに利用調整地区制度を導入することによって、多層的な観光利用を可能にしている点。また、数量規制ではなく、「密度管理」で人のマネジメントをしている点。
- ・ ガイドの方のスキルの高さ、人間性の豊かさに感服でした。かなりのリソースが投入されているフィールドで、得られるヒントも大きかったです。
- ・ ヒグマの危険をできる限り遠ざけるための利用調整なのだという点。以前来たときは面倒と感じましたが、理由が分かりやむなしと思うようになりました。
- ・ リスクを意識しながら観光するためのさまざまな方法。

### 実習3「河川工作物の改善と河川生態系の復元」(岩尾別川流域)で学んだことを教えてください

- ・川の音で説明が十分聴き取れなかったり、スリット加工された砂防ダムを十分見られなかったのは残念でしたが、計画的に長い年月をかけて取り組み、それによりしっかりとサケたちが遡上しているか否かのデータを取れている、そのモニタリングも含めて対応していくことの大切さが良く分かりました。
- ・手作りの魚道の崩壊状況を実地で見ることができ、サクラマスを遡上させる目標の達成がいかに難しいかを学びました。1箇所でも至近距離で観察させていただきたかったです。
- ・増水の影響など天候に左右される難しさ、トライアンドエラーの必要性を学べた。

### 実習4「エゾシカ管理と植生回復」(岩尾別台地)で学んだことを教えてください

- ・巨大な罾になっていることもさることながら、それに費用をかけて実現することの大変さ、成果を出していくことの更なる大変さを実感できました。
- ・これだけの規模とは…！現場におけるプロフェッショナルとしての在り方を学ばせていただきました。
- ・大型囲いわなの見学を楽しみにしておりましたが、想像以上に大型で非常に驚きました。実際に歩きながらクマ対策している職員さんの様子や、フン腸壁を採取する様子など、実際の現場職員さんの普段の働きが見られたことが1番の収穫です。

### 演習「カムイワッカ地区のデザイン」で学んだことを教えてください

- ・管理計画がそもそもどうして必要なのか、どのような内容で、どう気を付けていくのが良いか、ということ色々と学ぶことができ、とても良かったです。
- ・いろいろな場面で、管理計画を立てるという手法が活用できそうな気がしたし、5人（プラス、講師）で管理計画を作り上げたという経験が役に立つと感じた。
- ・同じ保護という観点でも、人それぞれゴールとする所にギャップがあり、その折り合いを付けることの難しさを感じた。色々な人の価値観に触れることができた。
- ・管理計画の策定は色々な意見の人がいる中で、皆が少しずつ妥協しながら意見を納得するまですり合わせるものなのだとことを学びました。実際にやると予算やステークホルダーなど考えることが目白押しで、普段計画の作成に関わる方を尊敬せずにはられませんでした。とてもよい体験ができたと思います。
- ・時間が限られていたせいか、6つあった検討課題のなかでも班によって詳細に議論している箇所がそれぞれ異なっていて、そこにメンバーの色が出ていてとても面白かったです。また、グループワークを通じてマイナスさを埋めてゼロにするのではなく、マイナスさを逆手に取ったシステムを作ることでプラスにしているということを学ぶことができました。



### 全体を通じて印象に残った点とその理由を教えてください。

- ・日々野生動物保護管理業務にあたる方、第一線の研究者の方々から発せられる生きた言葉がいくつも印象に残っています。今後、日々の業務を考えるヒントをたくさんいただきました。また、全道・全国で野生動物保護管理に取り組みされている方々の所（現）所在地がわかったことが、今後の財産になる気がしました。演習が終わったのちも、受講生同士の関わりが断続的にあることを期待しています。
- ・カムイワッカという現実の問題をとりあげて、計画づくりを実際に体験できたことは多くの気づきがあった。自然資源を保全するだけでなく、新たに創造し、持続的な利用保全につなげる視点、それを実際、調整し実行することの大切さを改めて再認識しました。
- ・敷田先生の講義にあった管理の意義や管理計画作成のフロー。公園利用と野生動物管理の国内における最前線である知床でも、常に試行錯誤を重ねられているということが現地を見て感じられた。
- ・自分が携わる仕事も含めて、保全が今やるべきことは矛盾と試行錯誤の連続であるということを認識させられました。悩ましく思っているのが当たり前なことだと分かり、みんなとその難しさを共有できたことで救われたような心持ちです。
- ・グループワークの課題が、実際に現在検討中であるが答えはなく、もしよい考えがあれば採用されるかも、というとてもやりがいのあるものでとてもよかったです。また、これからのカムイワッカの活用も含めた活動を追っていきたいと思います。今回の実習・演習を通して、今自分が抱えている職場での課題へのとっかかりがつかめたのでとても満足しました。

### 全体を通じて不満に感じた点とその理由を教えてください。

- ・参加者同士や先生、スタッフの皆さんとの交流の時間がもっと欲しかったです。社会人の方々なので、程度の差こそあれ様々なバックグラウンドがあり、そういったことも含めて演習に臨めると、更に深い議論ができたようにも感じました。
- ・オンライン講義と、実習の時期が離れていた点が不満だった。オンライン講義の内容・補足資料が豊富だったために、実習前にすべてを復習するのは難しかった。講義受講後から日を開けずに実習に入れれば、もっと多くのものを吸収できたように感じたため。
- ・カムイワッカ以外の実習についても実習後深掘する時間がほしかった
- ・参加者は皆社会人なので、管理計画作成にはもう少し時間をかけてより実現可能なレベルまで詰めたかった
- ・コロナが落ち着きましたら、是非とも地元の方々や自治体担当者の方との交流を復活させていただきたいです。

今後、当財団に期待するプログラムやテーマ、その他要望がありましたらご自由にお書きください。

- ・ヒグマ問題について。とくに今後、ヒグマの個体群管理が必要か、どうか。
- ・世界自然遺産地域における農林水産業。
- ・連山のうちのひとつをできれば海拔ゼロm地点から登頂するようなフィールドワーク・プログラム。
- ・漁師の方も交えた海と海洋生物に関するプログラムも期待いたします。
- ・日本全国のダムの改良・新設時に普及させていくためのカギを、現場の皆さんとも議論するようなテーマ設定。
- ・野生動物の管理について、エゾシカの処理場などの見学ができるようなものがあれば嬉しいです。
- ・陸に加え、空（気象）と海（プランクトン、魚類、海獣）のサイクル。
- ・テーマを一つに絞り、がっつりとその課題にだけ取り組むような講習。

自由記述欄には、たくさんのご意見、ご感想をいただきました。  
ここでは一部のご紹介ですが、今後のプログラムや運営に生かしたいと考えています。

## ■ 理事会・評議員会報告

### <令和4年度第1回理事会>

(定款第36条に基づく「決議の省略による」)

理事会の決議があったとみなされた日：2022年5月19日

**決議事項** 第1号議案 「令和3年度（2021年度）事業報告書」承認の件  
第2号議案 「令和3年度（2021年度）決算報告書」承認の件  
第3号議案 令和4年度第1回評議員会（定時）召集の件  
書面による同意の意思表示にて可決しました。

### <令和4年度第1回評議員会>

開催日時：2022年6月16日（木）午後1時30分より

開催場所：ゆめホール知床会議室2（斜里町本町4）

**決議事項** 第1号議案 「令和3年度（2021年度）事業報告書（案）」承認の件  
第2号議案 「令和3年度（2021年度）決算報告書（案）」承認の件  
第3号議案 理事選任の件

**報告事項** 1 賛助会員の加入状況及び募金の状況について  
2 今年度の活動展開について、その他の業務執行報告

### <令和4年度第2回理事会>

開催日時：2022年6月16日（木）午後7時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

**決議事項** 第1号議案 代表理事及び業務執行理事の選任

**報告事項** 1 代表理事・業務執行理事の業務報告  
2 賛助会員の加入状況及び募金の状況について  
3 資金獲得戦略ワーキンググループ報告

## 令和 3 年度事業報告

**= 概要 =** 財団設立から 9 年目、公益財団法人認定から 8 年目の令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の様々な制約の中、定款に沿った公益目的事業の取り組みや公益法人制度に則った正確な組織運営に努めました。

◎計画策定事業では、教育プログラムや教育課程などについて、計画策定専門委員会で議論しました。加えて国と専門家による「野生動物管理教育プログラム検討会」に参画。その方向性も踏まえてカリキュラム、ケースメソッドなどの概念・手法についても検討を継続しました。

◎実務に携わる現職社会人向けの「知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022」を企画し、2月にオンライン講義を実施しました（実習演習は令和 4 年度 6 月に開催）。9 月には知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッションを開催しました。

◎ニュースレターの発行とホームページへの情報掲載のほか、SNS を利用した広報活動を展開しました。

◎絶滅危惧種の保護増殖事業計画に基づく調査業務を環境省より受託し、調査研究事業の一環として実施しました。

◎関係機関への報告や意見交換の場はオンラインの活用などにより、理解と協力の継続と拡大を図りました。賛助会員や支援者・支援企業からは支援の継続を得られ、共催事業の実施や情報共有を通して支援拡大に努めました。

### I 公益事業

#### 1 知床自然大学院大学設立準備事業

##### (1) 知床自然大学院大学計画の策定と専門委員会の開催

会議ではオンライントークセッションの開催結果、知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022 の計画、その他の活動や国の検討会の状況等を報告し、今後の活動方針、特に教育体制の確立と教育プログラムの本格実施へ向けた考え方や行程について議論しました。

#### 第 11 回計画策定専門委員会

日 時：2022 年 1 月 11 日（火）

オンライン開催（Zoom による）

参加者：委員 12 名

#### 知床自然大学院大学設立財団 計画策定専門委員

委員長	梶 光一	東京農工大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団理事
副委員長	中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授
委員	金子 正美	酪農学園大学環境共生学類教授
委員	小林 万里	東京農業大学生物産業学部教授
委員	桜井 泰憲	北海道大学名誉教授
委員	鈴木 正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授
委員	敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学教授
委員	曾野 知雄	レスコム北海道合同会社代表
委員	中川 元	元知床博物館館長・知床自然大学院大学設立財団業務執行理事
委員	松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
委員	横山 真弓	兵庫県立大学自然環境科学研究所教授
委員	湯本 貴和	京都大学教授・京都大学霊長類研究所長
委員	吉田 正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
オブザーバー	大泰司紀之	北海道大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団評議員
オブザーバー	渡辺 綱男	元環境省自然環境局長・知床自然大学院大学設立財団顧問
オブザーバー	田中 俊次	東京農業大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団代表理事

## 2 普及啓発・広報事業及び調査研究事業

### (1) 知床ネイチャーキャンパスの開催

#### 知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッション 知床で生きる、働くー地域の自然と人をつなぐ活動とは？

日 時：2021年9月9日（木） 19：00～21：00  
講 師：村上晴花、秋葉圭太、三浦一輝（スピーカー）  
敷田麻実（コーディネーター）（敬称略）

方 法：オンライン（Zoomによる）

参加者：51名

→北海道から沖縄県まで全国各地からお申し込みがあり、大学生・大学院生 30名、社会人 21名にご参加いただきました。



#### 知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022

<オンライン講義>

テーマ：科学的保護管理システムの構築と実践＝世界自然遺産地域の経験を全国へ

日 時：2022年2月5日 13：00～17：20  
2月6日 10：00～16：20

講 師：渡辺綱男、渡邊雄児、桜井泰憲、松田裕之、敷田麻実、  
宇野裕之、中村太士、石名坂豪、秋葉圭太、梶光一（敬称略）

方 法：オンライン（Zoomによる）

参加者：42名

→環境省や林野庁、都道府県、市町村職員のほか環境コンサルタントや環境 NPO、民間会社など、さまざまな職種の方にご参加いただきました。



### (2) 高校生の研修旅行の指導、その他の活動など

#### 京都市立西京高校生の研修旅行コーディネート

日 時：2021年10月12日  
参加者：2年生 42名

同校からの要請を受け、北海道研修旅行の知床滞在時におけるフィールドワークとワークショップのコーディネートを行いました。当財団の午来評議員による講演、知床五湖やペレケ川周辺のフィールドワークのほか、ヒグマとの共生を考えるワークショップを開催しました。

#### 屋久島学ソサエティへの参加

日 時：2021年12月4、5日

屋久島学ソサエティ（湯本貴和会長）第9回大会（オンライン開催）のテーマセッションに中川元業務執行理事が講師として参加し、知床の現状と課題について紹介しました。屋久島学ソサエティは、世界自然遺産屋久島の住民と研究者が共に学び合い、地域社会の問題解決を目指す学会で、当財団の活動にも共通しています。

### (3) 「設立財団ニュースレター」の発行

ニュースレターを3回発行しました。

<第 23 号> 2021 年 5 月 10 日発行 10p  
「2021（令和 3）年度の活動について」など

<第 24 号> 2021 年 9 月 24 日発行 14p  
「知床ネイチャーキャンパス presents オンライン  
トークセッションの開催について」など

<第 25 号> 2022 年 3 月 1 日発行 14p  
「知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022」オ  
ンライン講義の開催報告など

### (4) ネットを活用した広報活動

#### <ホームページの運用>

活動を紹介する主要な場として運用し、行事案内や活動の結果報告を掲載。各年度の事業計画・事業報告、予算書・決算書等の情報公開、ニュースレターの各号の公開をホームページの中で行いました。

#### <公式ブログの更新と SNS の活用>

ブログでは知床の自然と産業に関する紹介や行事の案内等を行いました。SNS は Facebook と Twitter を継続運用し、Instagram のアカウントを開設。フォロワー数は順調に伸び、賛助会員や支援者、野生生物や人材養成に関心を持つ幅広い皆さんとの交流や情報交換の場となりました。

### (5) 調査研究事業

人材養成のための教育プログラムや教育課程に関する資料収集と調査研究を進めました。特に新しい教育手法として導入を検討している「ケースメソッド」に関する文献資料収集や活用方法を研究しました。また Web 会議システムの技術や講義配信システムに関する情報収集など、オンライン教育と現場実習を組み合わせた効果的なプログラム構築のための調査研究を進めました。

環境省による令和 3 年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業による「海ワシ類越冬個体数調査結果解析等業務」を受託し、令和 2 年度に実施した越冬個体数調査結果の解析と、海ワシ類調査へのデジタル手法導入の検討及び試行結果をまとめ報告しました。調査目的は、絶滅危惧種鳥類として国内希少野生動植物種に指定されているオジロワシとオオワシの保護上の課題や対策をまとめ、保護増殖のための基礎資料とするものでした。



オオワシ

## II 理事会及び役員等に関する報告

### 1 理事会

#### <令和 3 年度第 1 回理事会>

（定款第 36 条に基づく「決議の省略」による）

理事会の決議があったと見なされた日：2021 年 5 月 17 日

**決議事項** 第 1 号議案 「令和 2 年度（2020 年度）事業報告書（案）」承認の件

第 2 号議案 「令和 2 年度（2020 年度）決算報告書（案）」承認の件

第 3 号議案 令和 3 年度第 1 回評議員会（定時）招集の件

書面による同意の意思表示によって可決しました。

### <令和 3 年度第 2 回理事会>

開催日時：2021 年 6 月 5 日（土）午後 4 時より

開催方法：オンライン会議システムを使った Web 理事会として開催

**決議事項** 第 1 号議案 令和 3 年度（2021 年度）第 1 回評議員会（定時）召集の件  
以上、原案通り可決しました。

**報告事項** 1. 代表理事及び業務執行理事の業務執行報告  
2. 「野生動物管理教育プログラム検討会」への出席状況について

### <令和 3 年度第 3 回理事会>

開催日時：2021 年 11 月 2 日（火）午後 7 時より

開催方法：オンライン会議システムを使った Web 理事会として開催

**報告事項** 1. 代表理事及び業務執行理事の業務執行報告  
2. 賛助会員の加入状況・募金の状況について  
3. 知床ネイチャーキャンパス presents オンライントークセッションの開催結果について  
4. 「野生動物管理教育プログラム検討会」の検討状況について

**協議事項** 1. 今年度の知床ネイチャーキャンパス開催案について  
2. 知床のカリキュラムと教育体制構築へのロードマップ について

### <令和 3 年度第 4 回理事会>

開催日時：2021 年 11 月 23 日（火）午前 10 時より

開催方法：オンライン会議システムを使った Web 理事会として開催

**報告事項** 1. 知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022 の募集について

**協議事項** 1. 知床のカリキュラムと教育体制構築へのロードマップ についてーその 2

### <令和 3 年度第 5 回理事会>

開催日時：2022 年 1 月 22 日（土）午前 10 時より

開催方法：オンライン会議システムを使った Web 理事会として開催

**報告事項** 1. 第 11 回計画策定専門委員会の開催結果について  
2. 第 5 回野生動物管理教育プログラム検討会への出席報告  
3. 2022 年度地球環境基金助成金交付申請について  
4. 内閣府立入検査（12 月 16 日）の結果について

**協議事項** 1. 知床のカリキュラムと教育体制構築へのロードマップ についてーその 3  
2. 支援獲得戦略と獲得体制の検討

### <令和 3 年度第 6 回理事会>

開催日時：2022 年 3 月 13 日（日）午後 7 時より

開催方法：オンライン会議システムを使った Web 理事会として開催

**決議事項** 第 1 号議案 「令和 4 年度（2022 年度）事業計画（案）」承認の件  
第 2 号議案 「令和 4 年度（2022 年度）収支予算（案）」承認の件

以上、原案通り可決しました。

**報告事項** 1. 代表理事・業務執行理事の業務報告  
2. 「知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022（オンライン講義）」の開催結果  
3. 賛助会員の加入状況・募金の状況  
4. 資金獲得戦略ワーキンググループ・各部会報告

**協議事項** 1. 令和 4 年度の事業展開と資金獲得戦略について

## 知床自然大学院大学設立財団 役員名簿

### 理事・監事

2022年（令和4年）3月31日現在

代表理事	田中 俊次	東京農業大学名誉教授	2013年1月22日～
業務執行理事	中川 元	元知床博物館館長	2013年1月22日～
業務執行理事	上野 雅樹	知床ユネスコ協会理事	2013年1月22日～
理事	家村 充尋	知床ユネスコ協会会員	2013年1月22日～
理事	石川 勝	元羅臼町教育委員長	2014年6月 8日～
理事	梶 光一	東京農工大学名誉教授	2013年1月22日～
理事	笠井 文考	会社社長・東京農業大学非常勤講師	2018年6月10日～
理事	金澤 裕司	北海道地方 ESD 活動支援センター ESD アドバイザー	2013年1月22日～
理事	鈴木 幸夫	会社員・在日外国人支援団体理事	2013年1月22日～
理事	滝澤 大徳	知床山考舎代表	2014年6月 8日～
理事	中田 尊徳	会社社長・斜里青年会議所元理事長	2016年6月12日～
理事	中村 康江	主婦	2020年6月20日～
理事	三宅 雅久	北海道ふるさと会連合会理事	2014年6月 8日～
監事	木村耕一郎	斜里町議会議員・前議長	2013年1月22日～
監事	廣川 昭廣	税理士	2013年1月22日～

### 評議員

2022年（令和4年）3月31日現在

評議員	上野 洋司	前知床斜里町観光協会会長	2013年1月22日～
評議員	大泰司紀之	北海道大学名誉教授	2020年6月20日～
評議員	午来 昌	元斜里町長	2013年1月22日～
評議員	齋藤 卓也	元北海道環境財団専務理事	2020年6月20日～
評議員	鈴木 眞吾	元斜里町教育委員長	2013年1月22日～
評議員	土橋 利文	斜里町商工会会長	2013年1月22日～
評議員	深山 和彦	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長	2013年1月22日～

### 顧問・相談役

2022年（令和4年）3月31日現在

顧問	石 弘之	環境問題研究家	2020年6月20日～
顧問	唐沢 敬	国際研究インスティテュート（IIS）代表 立命館大学名誉教授	2020年6月20日～
顧問	松浦晃一郎	中部大学客員教授 元ユネスコ事務局長（第8代）	2013年1月22日～
顧問	渡辺 綱男	自然環境研究センター上席研究員 元環境省自然環境局長	2013年1月22日～
相談役	丹保 憲仁	北海道立総合研究機構前理事長 北海道大学名誉教授（第15代総長）	2013年1月22日～

## 2 評議員会

### <令和 3 年度第 1 回評議員会 (定時)>

(定款第 20 条に基づく「決議の省略」による)

評議員会の決議があったと見なされた日：2021 年 6 月 17 日

**決議事項** 第 1 号議案 「令和 2 年度 (2020 年度) 事業報告書 (案)」承認の件  
 第 2 号議案 「令和 2 年度 (2020 年度) 決算報告書 (案)」承認の件

北海道で新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が出されたため、対面会議を取りやめ、書面による同意の意思表示によって可決しました。

## III 法人の運営状況について

### 1 事務局の状況、知床ワイルドライフセンター設置と研究員の新規雇用

常勤の業務執行理事 1 名と非常勤の事務局長 (理事) 1 名、常勤の事務局員 1 名、研究員 1 名による運営体制としています。令和 3 年 5 月より、事務局から徒歩圏内の居住用家屋を借り受け、知床ワイルドライフセンターとして開設し、研究者やボランティア等が滞在し活動する場としました。令和 3 年度は実習で来町した大学生の利用がありました。また 5 月 1 日より新たに研究員 1 名を雇用。教育プログラムの策定や知床ネイチャーキャンパスの企画運営のほか、各種教育普及活動や調査研究、ワイルドライフセンターの管理運営を担当しています。

### 2 ファンドレイジングの状況 (賛助会員と寄附金について)

	種別	予算 (件数)	予算 (金額)	実績 (件数)	実績 (金額)
賛助会員	個人	200	1,000,000	95	475,000
	団体	15	150,000	5	50,000
	法人・法人特別	80	4,000,000	33	1,220,000
	小計	295	5,150,000	133	1,745,000
寄附金		---	4,850,000	49	3,045,576
	合計	---	10,000,000		4,790,576
大学院設立資金	目標額	---	495,000,000	1	500,000

賛助会員の新規募集と寄付金の要請は、コロナ禍のため要請行動は自粛せざるを得ず、役員及び事務局からの依頼やパンフレットの送付による案内を行いました。また、主催事業や関係イベント等でのパンフレット配布やホームページの活用、SNS を利用した広報活動を行いました。

令和 3 年度は新規賛助会員の加入を得た一方で、会員継続されなかった会員があったため、賛助会員数、金額ともに前年度をやや下回る結果となりました。一般寄付金はコロナ禍で企業活動が停滞する経済情勢の中、役員によるパンフレット郵送などにより、前年度より件数、金額ともに増額しました。

次ページより、令和 3 年度決算書類 (貸借対照表、正味財産増減計算書) を掲載しました。

貸借対照表 令和4(2022)年3月31日現在

資産の部

流動資産	当年度	前年度	増減	(単位:円)
現金・預金	453,325	1,023,168	△569,843	
未収金	946,000	3,168,000	△2,222,000	
立替金	0	2,379	△2,379	
仮払金	53,243	46,556	6,687	
<b>流動資産合計</b>	<b>1,452,568</b>	<b>4,240,103</b>	<b>△2,787,535</b>	
固定資産				
基本財産				
定期預金	3,000,000	3,000,000	0	
<b>基本財産合計</b>	<b>3,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>	
特定資産				
大学院設立資金(定期預金)	3,036,396	2,536,368	500,028	
大学設立資金(その他)	80,000	80,000	0	
<b>特定資産合計</b>	<b>3,116,396</b>	<b>2,616,368</b>	<b>500,028</b>	
その他固定資産				
保証金	60,000	60,000	0	
その他固定資産合計	60,000	60,000	0	
<b>固定資産合計</b>	<b>6,176,396</b>	<b>5,676,368</b>	<b>500,028</b>	
<b>資産合計</b>	<b>7,628,964</b>	<b>9,916,471</b>	<b>△2,287,507</b>	

負債の部

流動負債	当年度	前年度	増減
未払費用	105,960	2,691,454	△2,585,494
前受金	40,000	25,000	15,000
預り金	42,268	5,865	36,403
未払法人税等	20,000	20,000	0
<b>流動負債合計</b>	<b>208,228</b>	<b>2,742,319</b>	<b>△2,534,091</b>
<b>負債合計</b>	<b>208,228</b>	<b>2,742,319</b>	<b>△2,534,091</b>

正味財産の部

指定正味財産	当年度	前年度	増減
寄付金	3,115,600	2,615,600	500,000
受取利子	796	768	28
<b>指定正味財産合計</b>	<b>6,116,396</b>	<b>5,616,368</b>	<b>500,028</b>
(うち基本財産への充当額)	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(3,116,396)	(2,616,368)	(50,028)
<b>一般正味財産</b>	<b>1,304,340</b>	<b>1,557,784</b>	<b>△253,444</b>
<b>正味財産合計</b>	<b>7,420,736</b>	<b>7,174,152</b>	<b>246,584</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>7,628,964</b>	<b>9,916,471</b>	<b>△2,287,507</b>

正味財産増減計算書 令和3(2021)年4月1日 - 令和4(2022)年3月31日

一般正味財産増減の部

経常増減の部

(単位:円)

経常収益	当年度	前年度	増減
基本財産運用益	51	255	△204
受取会費	1,745,000	1,895,000	△150,000
賛助会費(個人)	475,000	505,000	△30,000
賛助会費(団体)	50,000	50,000	0
賛助会費(法人)	1,220,000	1,340,000	△120,000
受取寄付金	3,045,576	735,080	2,310,496
一般寄附金	2,977,426	734,080	2,243,346
管理指定寄付金	68,150	1,000	67,150
受取補助金等	443,000	285,000	158,000
事業収益	1,148,000	3,168,000	△2,020,000
雑収益	90,008	5	90,003
普通預金受取利息	8	5	3
その他収益	90,000	0	90,000
<b>経常収益計</b>	<b>6,471,635</b>	<b>6,083,340</b>	<b>388,295</b>

経常費用

<b>事業費</b>	<b>5,544,783</b>	<b>4,789,290</b>	<b>755,493</b>
役員報酬	630,000	630,000	0
給与手当	2,393,588	463,910	1,839,678
福利厚生費	332,270	35,000	297,270
会議費	13,200	0	13,200
旅費交通費	22,135	1,829,560	△1,807,425
通信運搬費	420,151	514,756	△94,605
消耗品費	140,435	552,844	△412,409
修繕費	31,425	34,881	△3,456
印刷製本費	116,931	226,179	△109,248
水道光熱費	252,217	79,305	172,912
事務所賃借料	801,528	218,731	582,797
リース料	58,641	67,716	△9,075
保険料	0	6,128	△6,128
諸謝金	195,472	34,000	161,472
委託費	200,000	70,000	130,000
支払手数料	4,277	16,280	△12,003
新聞図書費	8,620	0	8,620
支払負担金	10,000	10,000	0
雑費	3,893	0	3,893
<b>管理費</b>	<b>1,180,296</b>	<b>602,965</b>	<b>577,331</b>
役員報酬	210,000	210,000	0
給与手当	355,362	154,637	200,725
福利厚生費	52,789	11,666	41,123

旅費交通費	26,725	5,380	21,345
通信運搬費	66,026	49,177	16,849
消耗品費	35,460	1,203	34,257
修繕費	10,475	11,627	△1,152
印刷製本費	29,440	8,774	20,666
水道光熱費	84,072	26,435	57,637
事務所賃借料	267,176	72,910	194,266
会場賃借料	0	560	△560
リース料	19,547	22,572	△3,025
支払手数料	1,907	4,524	△2,617
租税公課	21,100	23,500	△2,400
雑費	217	0	217
<b>経常費用計</b>	<b>6,725,079</b>	<b>5,392,255</b>	<b>1,332,824</b>
評価損益等調整前			
当期経常増減額	△253,444	691,085	△944,529
評価損益等計	0	0	0
<b>当期経常増減額</b>	<b>△253,444</b>	<b>691,085</b>	<b>△944,529</b>

経常外増減の部

経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>△253,444</b>	<b>691,085</b>	<b>△944,529</b>
一般正味財産期首残高	1,557,784	866,699	691,085
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>1,304,340</b>	<b>1,557,784</b>	<b>△253,444</b>

指定正味財産増減の部

	当年度	前年度	増減
受取寄付金	500,000	0	500,000
受取寄付金(大学設立資金)	500,000	0	500,000
特定資産運用益	28	128	△100
大学院設立資金受取利息	28	128	△100
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>500,028</b>	<b>128</b>	<b>499,900</b>
指定正味財産期首残高	5,616,368	5,616,240	128
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>6,116,396</b>	<b>5,616,368</b>	<b>500,028</b>
<b>正味財産期末残高</b>	<b>7,420,736</b>	<b>7,174,152</b>	<b>246,584</b>

★クラウドファンディングに挑戦しています★

## 野生生物との共生を 知床ネイチャーキャンパスの継続を皆さまと共に！

目標金額 **200万円** 2022年**8月8日**(月)まで



野生生物と人間が共存する未来環境は、文明社会において望ましい姿であると考えています。そのためには生態系全体の調和をリードする専門的・実践的能力を有したエキスパートが必要不可欠です。

知床ネイチャーキャンパスの継続実施と、教材開発等によるさらなる野生生物管理教育の充実により、エキスパートをはじめとする多くの学生・社会人が育ち学べる教育環境の創造をぜひ応援してください。

あたたかなご支援・応援をよろしくお願いたします。

クラウドファンディングサービス  
READY FOR WEB サイト



右記の QR コード、もしくは検索より、クレジットカードまたは銀行振込でご支援ください。

知床ネイチャーキャンパス レディーフォー 

[https://readyfor.jp/projects/sihretoko\\_nature\\_campus](https://readyfor.jp/projects/sihretoko_nature_campus)

※申込書を利用した銀行振込でのご支援も可能です。  
下記の事務局までご連絡ください。

お申し込み先  
公益財団法人知床自然大学院大学設立財団  
099-4117  
北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10  
電話：0152-26-7770  
FAX：0152-26-7773  
メール：sizendaigaku@wine.plala.or.jp

### 設立財団ニュースレター 第27号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団  
〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10  
TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp  
Web <http://www.shiretoko-u.jp>  
発行日 2022年7月20日